

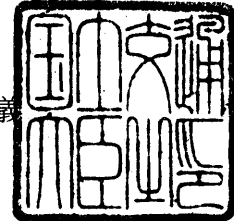


認定書

国住指第 3567 号
平成 20 年 12 月 25 日

吉野石膏株式会社
代表取締役社長 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 金子 一義



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号及び同法施行令第 107 条第二号（間仕切壁（非耐力壁）：1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060NP-0174
2. 認定をした構造方法等の名称
両面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

両面強化せっこうボード重張／軽量鉄骨下地間仕切壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様 等
① 被 覆 材	<p>上張り材及び 下張り材</p> <p>強化せっこうボード 規格：不燃材料認定番号 NM-8615、JIS A 6901 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエアー、テーパー、ベベル 厚さ(mm)：12.5・15・18・21・25±0.5 かさ比重：0.76(-0.01)以上 大きさ(mm)：最小910×1,820、最大1,210×4,500 (*大きさは一般部における寸法を示す。)</p>
② 下 地 材	<p>上部及び下部 ランナー</p> <p>材料名及び規格 ・溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ・電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) ・溶融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314) ・溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 形状・寸法(mm) □-45~1,000×30~75、厚さ0.4以上</p>
間柱(スタッ ド)	<p>材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部及び下部ランナーに同じ。 形状・寸法(mm) a. □-45~1,000×45~75×8~32、厚さ0.4以上 b. □-45~1,000×40~50、厚さ0.4以上 取付け間隔及び中空部の厚さ シングルランナー共通間柱構造の場合 取付け間隔(mm)：606以下 中空部の厚さ(mm)：45~1,050 シングルランナー千鳥間柱構造の場合 取付け間隔(mm)：303以下 中空部の厚さ(mm)：47~1,050 ダブルランナー並列間柱構造の場合 取付け間隔(mm)：606以下 中空部の厚さ(mm)：91~2,050</p>
振れ止め(必要 に応じて取付 ける。)	<p>材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部及び下部ランナーに同じ。 形状・寸法(mm) □-19~25×10、厚さ0.9以上</p>

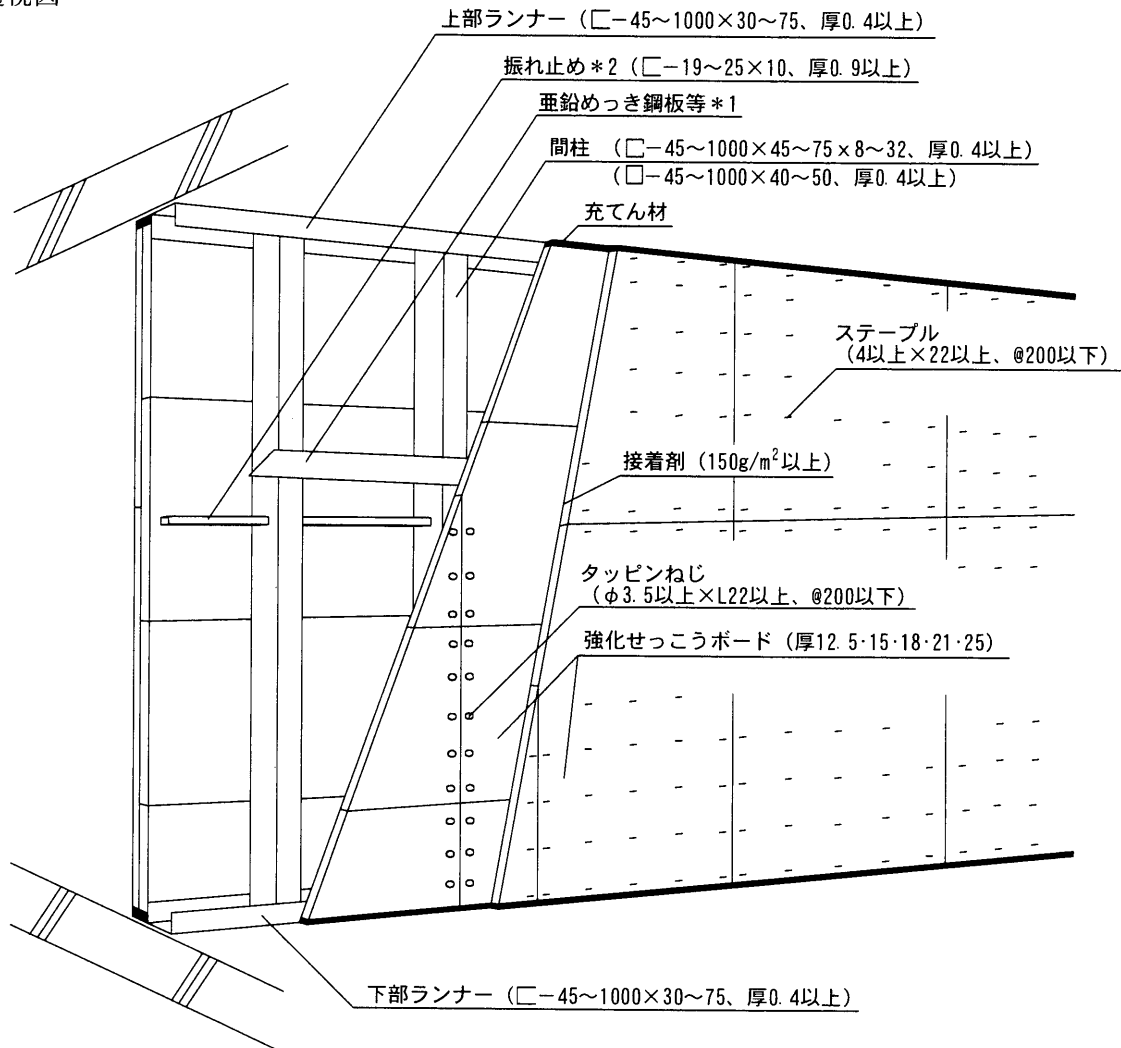
項 目	製 品 仕 様 等
③ 副 構 成 材 料	<p>間柱(スタッド)用スペーサー</p> <p>材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部及び下部ランナーに同じ。 厚さ(mm)：0.5以上 取付け間隔(mm)：600以下(高さ方向)</p>
亜鉛めっき鋼板等(必要に応じて取付ける。)	<p>種類、規格等</p> <p>a. 亜鉛めっき鋼板 材料名及び規格 材料名及び規格は前記の上部及び下部ランナーに同じ。 厚さ(mm)：0.11～2.3 大きさ(mm)：50～4,000×100～4,000</p> <p>b. メタルラス 規格：JIS A 5505 質量(kg/m²)：0.45～1.05 大きさ(mm)：50～4,000×100～4,000</p>
敷目板(必要に応じて取付ける。)	<p>種類等</p> <p>せっこう板、せっこうボード、強化せっこうボード、不燃積層せっこうボード、繊維混入けい酸カルシウム板、グラスウール(10kg/m³以上)、ロックウール(10kg/m³以上)、グラスファイバーフェルト(10kg/m³以上)又はロックウールフェルト(10kg/m³以上) 寸法(mm)：厚さ1～25、幅40以上</p>
ランナー用スペーサー(必要に応じて取付ける。)	<p>種類等</p> <p>せっこう板、せっこうボード、強化せっこうボード、不燃積層せっこうボード、繊維混入けい酸カルシウム板、グラスウール(10kg/m³以上)、ロックウール(10kg/m³以上)、グラスファイバーフェルト(10kg/m³以上)、ロックウールフェルト(10kg/m³以上)又は亜鉛めっき等鋼板 寸法(mm) せっこう板、せっこうボード等 厚さ4～50、40以上×40以上 亜鉛めっき等鋼板 鋼板の厚さ0.4以上、□-4～50×40以上、幅40以上</p>
タッピンねじ、ステープル、接着剤等	<p>下張り材取付け用 タッピンねじ 寸法(mm)：φ3.5以上×L22以上 留め付け間隔(mm)：200以下</p> <p>上張り材取付け用</p> <p>a. ステープル 寸法(mm)：幅4以上、長さ22以上 留め付け間隔(mm)：200以下</p> <p>b. 接着剤 種類 酢酸ビニル樹脂系、アクリル樹脂系、ウレタン樹脂系、エポキシ樹脂系、ポリアミド系、ポリサルファイド系、シリコン系、合成ゴム系、せっこう系、炭酸カルシウム系 塗布量(g/m²)：150以上</p> <p>c. タッピンねじ 寸法(mm)：φ3.5以上×L32以上 留め付け間隔(mm)：900以下</p> <p>取付け方法 上記aとbで下張り材に取付け、必要に応じて、cを併用して、間柱(スタッド)に取付ける。</p>

項 目	製 品 仕 様 等
③ 副 構 成 材 料	亜鉛めっき鋼板等取付け用 タッピンねじ 寸法(mm)：φ2.8以上×L10以上 リベット 寸法(mm)：φ2.8以上 敷目板仮留め用 a. タッピンねじ 寸法(mm)：φ2.8以上×L10以上 b. 粘着テープ又は両面粘着テープ 粘着剤の種類 アクリル樹脂系、ポリアミド系、天然ゴム系、合成ゴム系 寸法(mm)：厚さ3以下、幅75以下 c. 接着剤 種類：前記の上張り材取付け用接着剤に同じ。 塗布量(g/m ²)：300以下 取付け方法：上記aからcのいずれかで間柱(スタッド)に取付ける。
壁端部(柱・はり等との取り合い部)の処理材(充てん材)	下張り材又は上張り材のどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、目透かし部に次のaからcのいずれかを充てんする。目透かし幅は10mm以下とする。 a. シーリング材 種類 ポリウレタン系、アクリル系、アクリルウレタン系、ポリサルファイド系、ポリイソブチレン系、シリコーン系、変成シリコーン系 目透かし幅1mm当たりの充てん量(g/m) 下張り材目透かし部：7以上 上張り材目透かし部：7以上 b. ロックウール、ロックウール保温板、ロックウールフェルト、ロックウールモルタル、グラスファイバーフェルト 密度(kg/m ³)：10以上 c. せっこう系、炭酸カルシウム系無機質充てん材 目透かし幅1mm当たりの充てん量(g/m) 下張り材目透かし部：7以上 上張り材目透かし部：7以上

4. 構造説明図

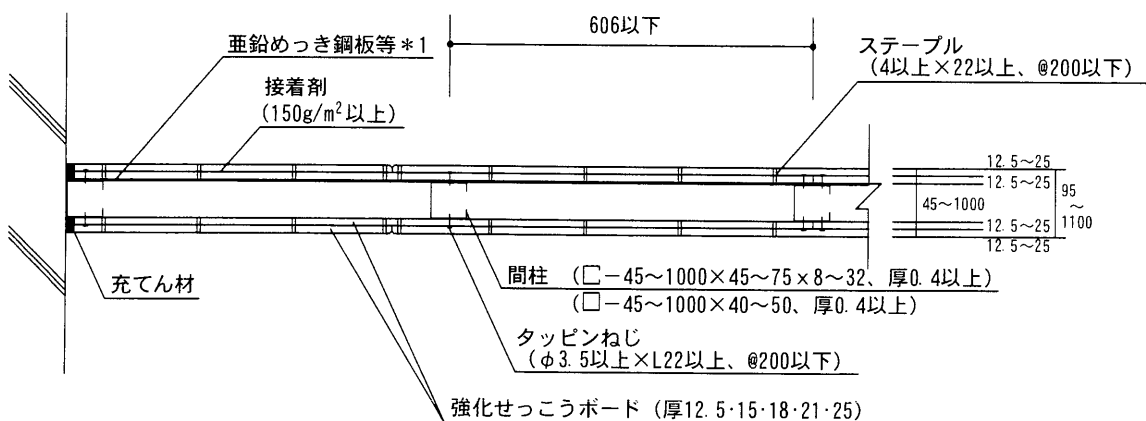
(単位：mm)

(1) 透視図



- *1 亜鉛めっき鋼板等 (必要に応じて取付ける)
種類：亜鉛めっき鋼板 (厚さ0.11~2.3mm) 又はメタルラス (0.45~1.05kg/m²)
取付位置：片面又は両面
間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間
- *2 振れ止めは必要に応じて取付ける

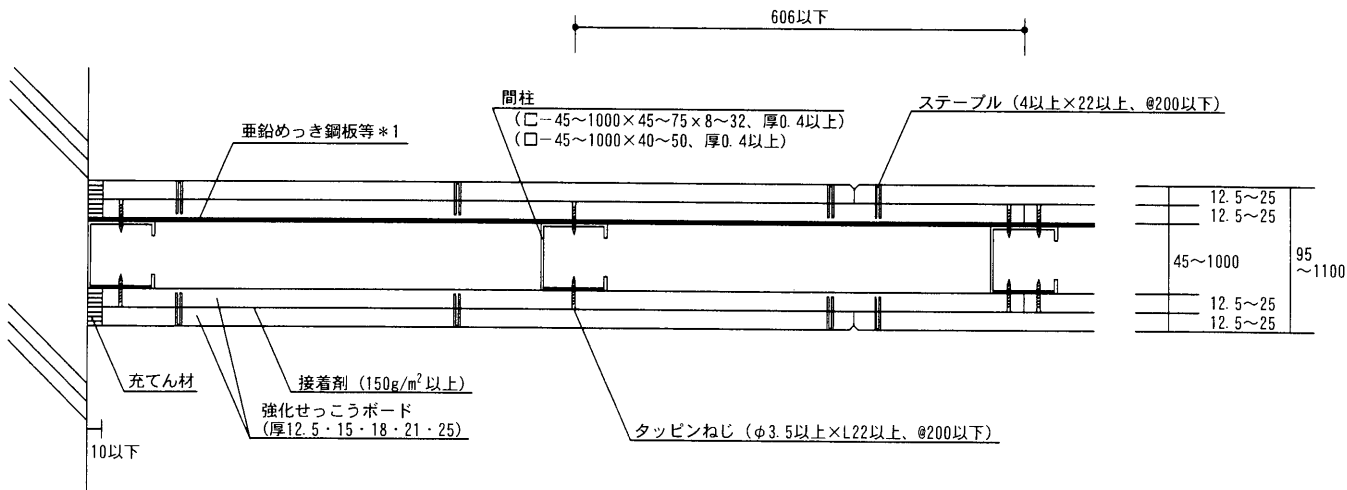
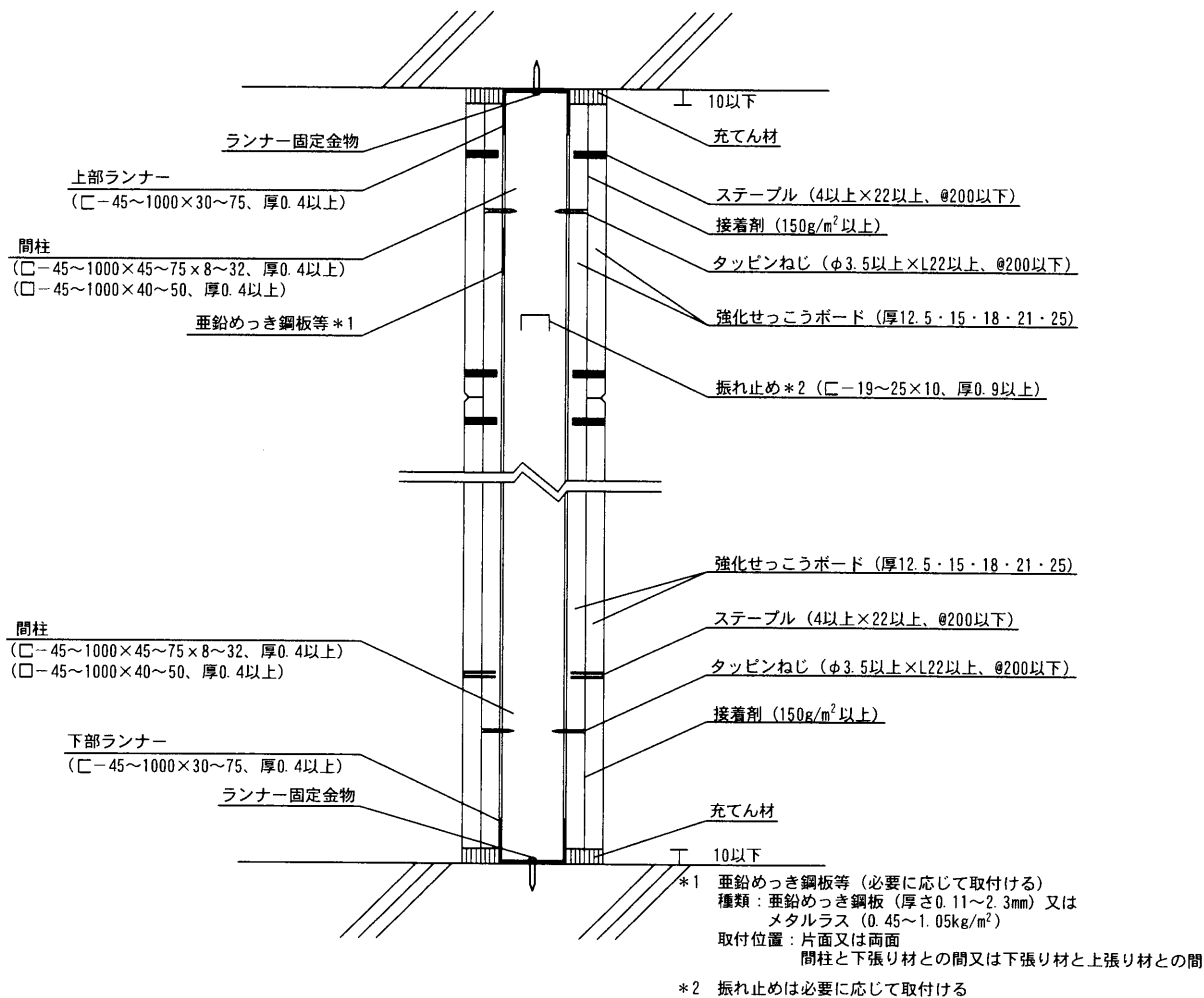
(2) 水平断面図



(3) 断面詳細図

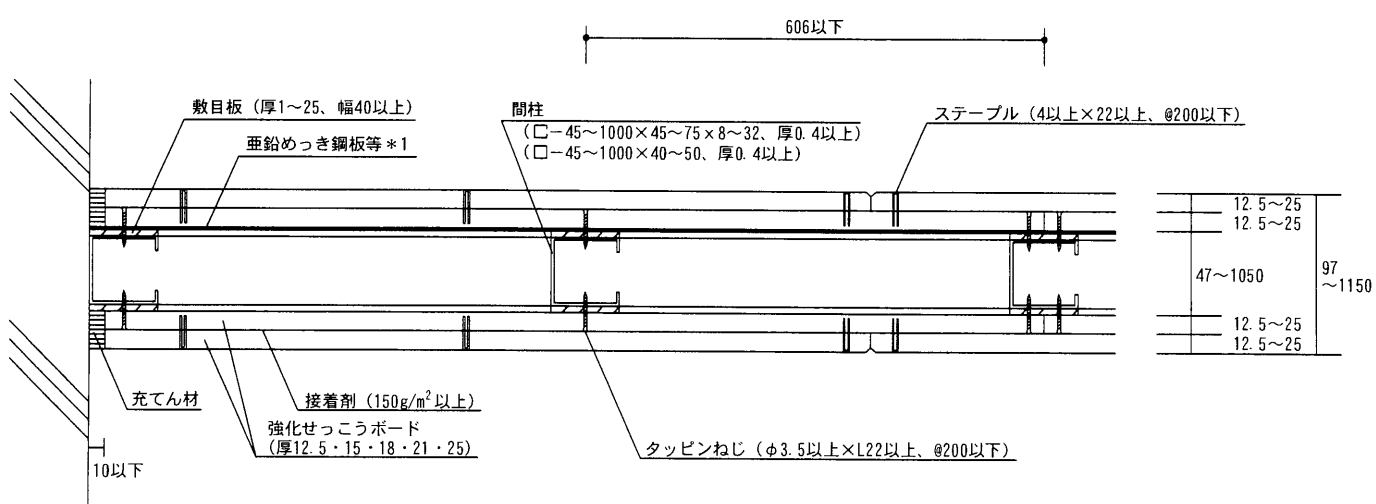
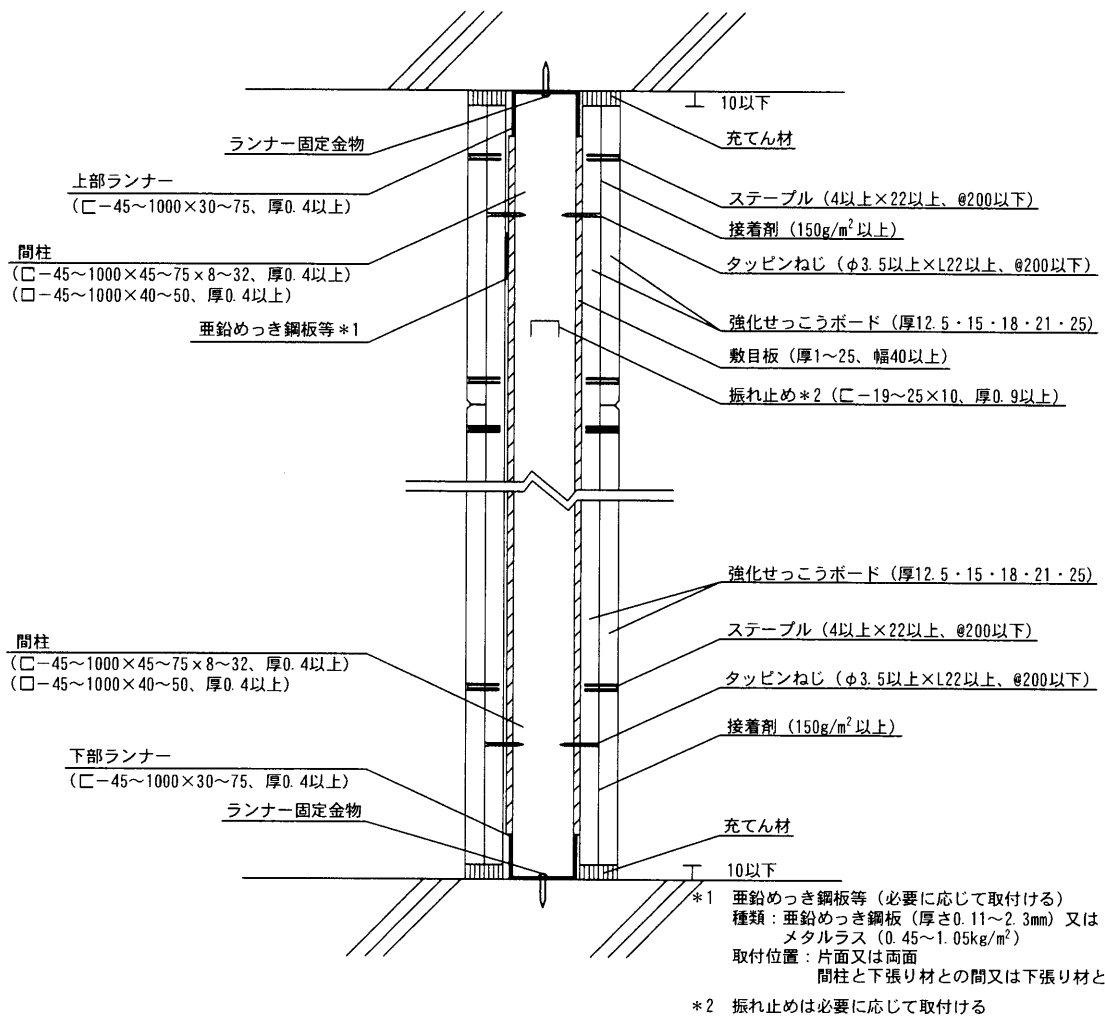
① シングルランナー共通間柱構造

(単位 : mm)



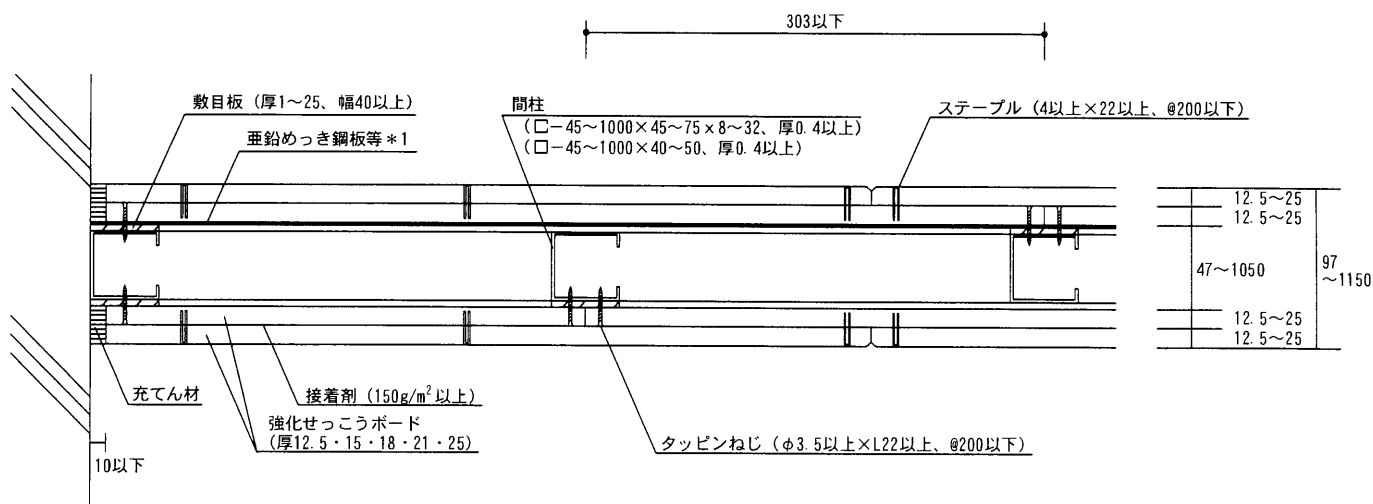
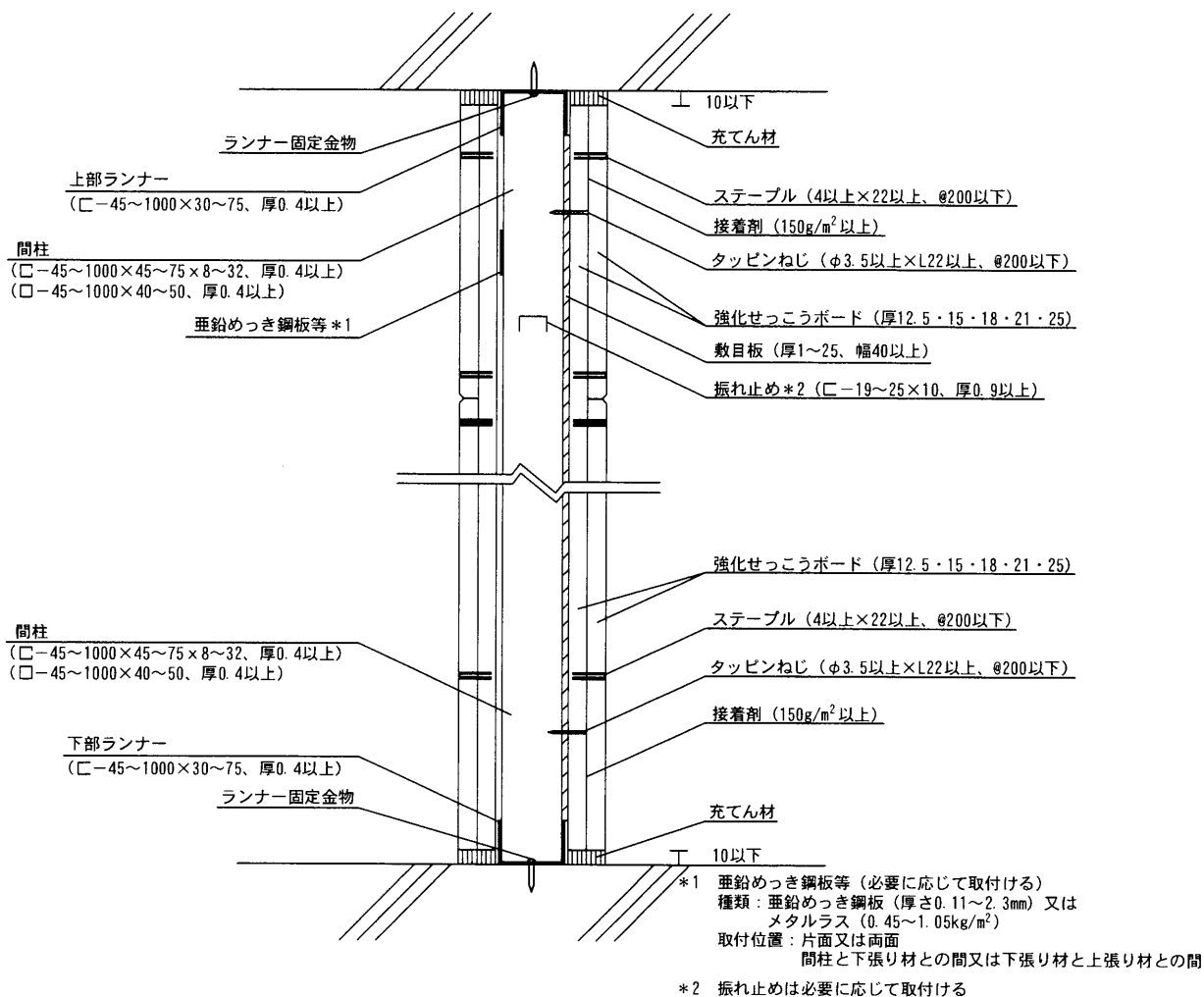
②シングルランナー共通間柱構造（敷目板仕様）

（単位：mm）



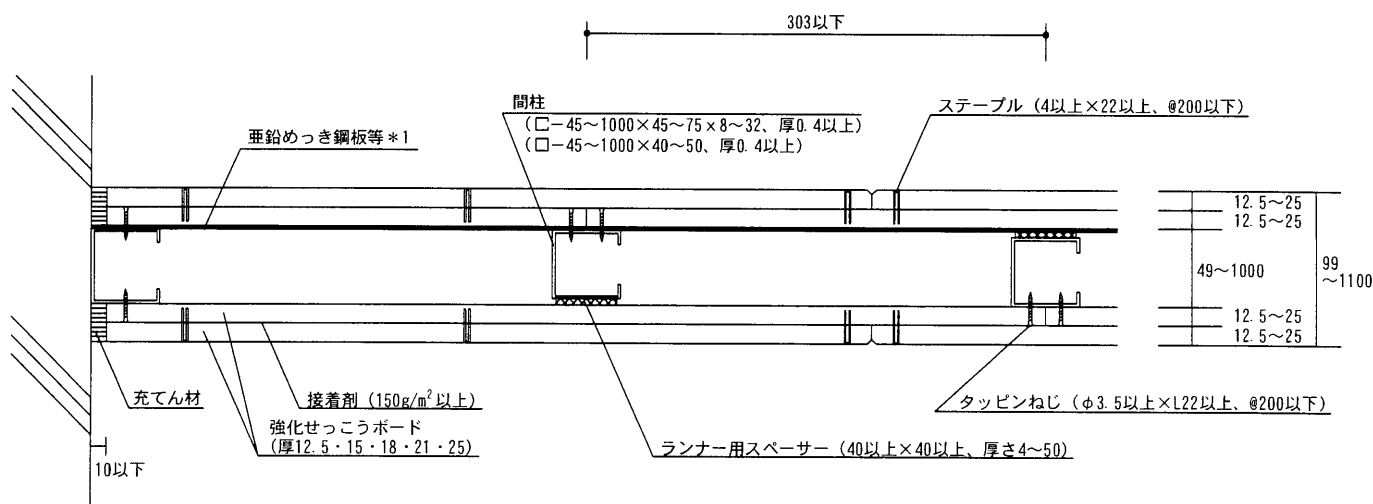
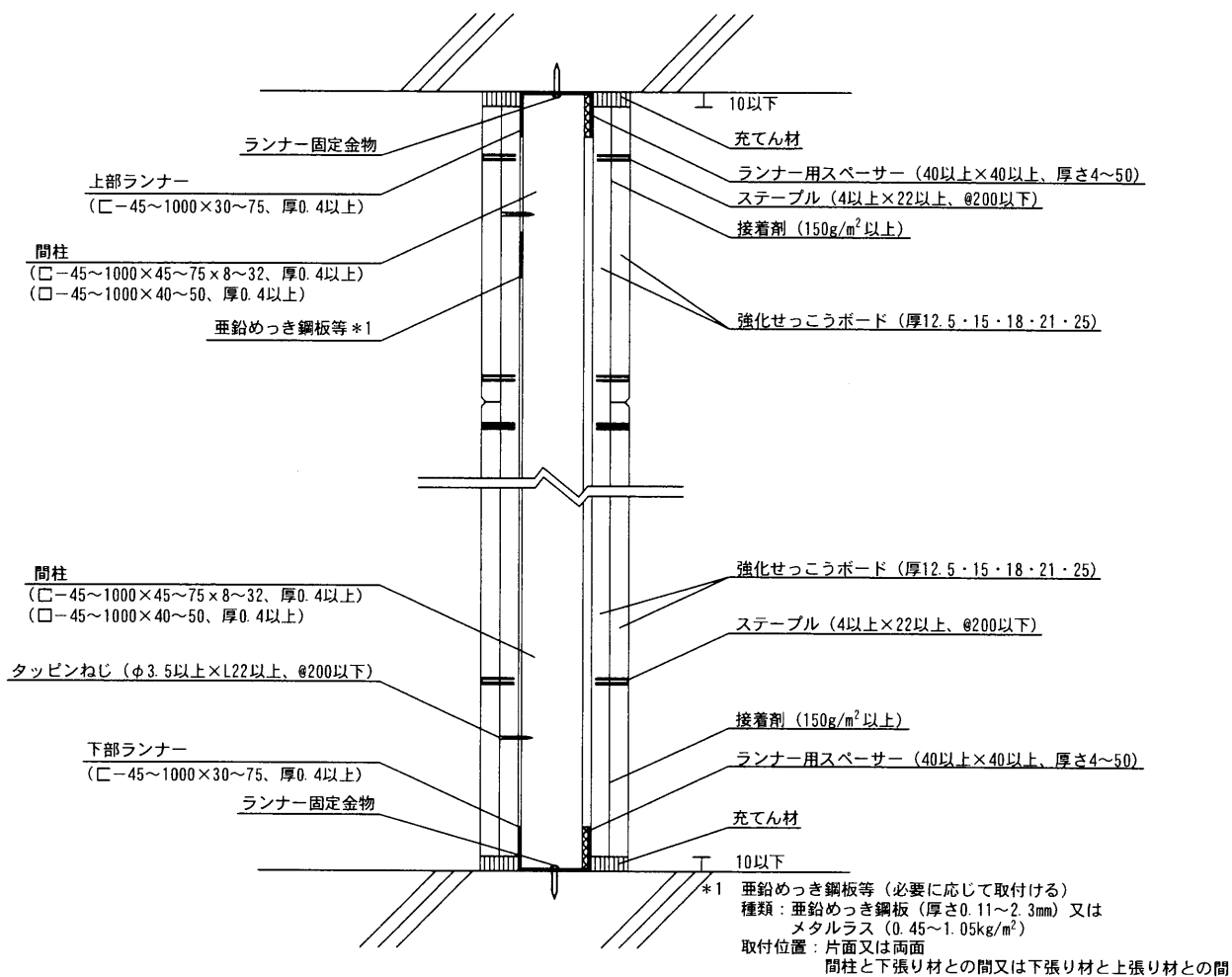
③シングルランナー千鳥間柱構造（敷目板仕様）

（単位：mm）



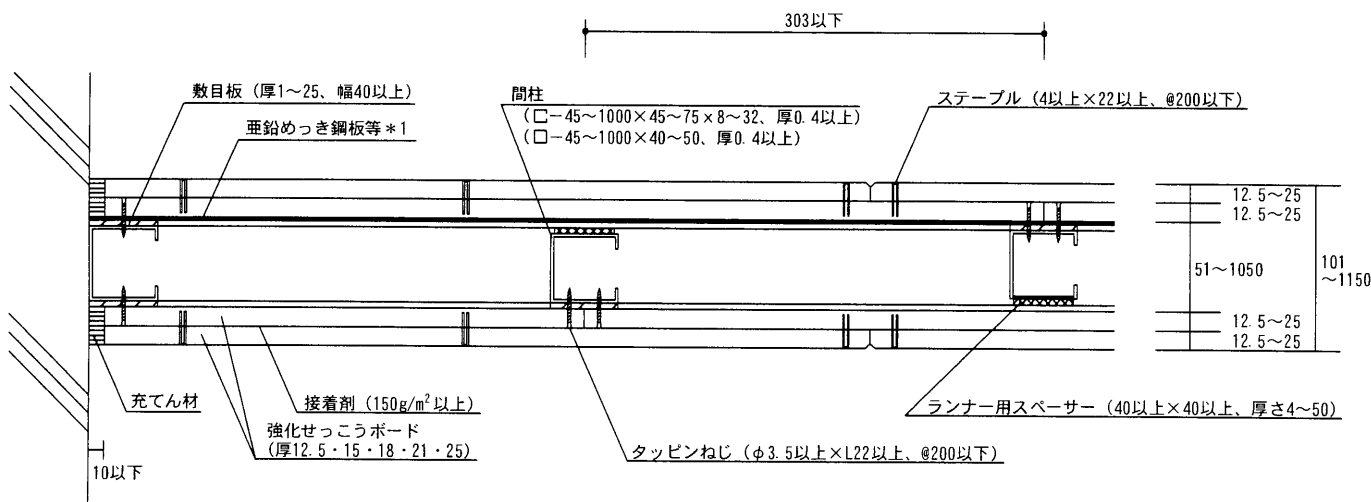
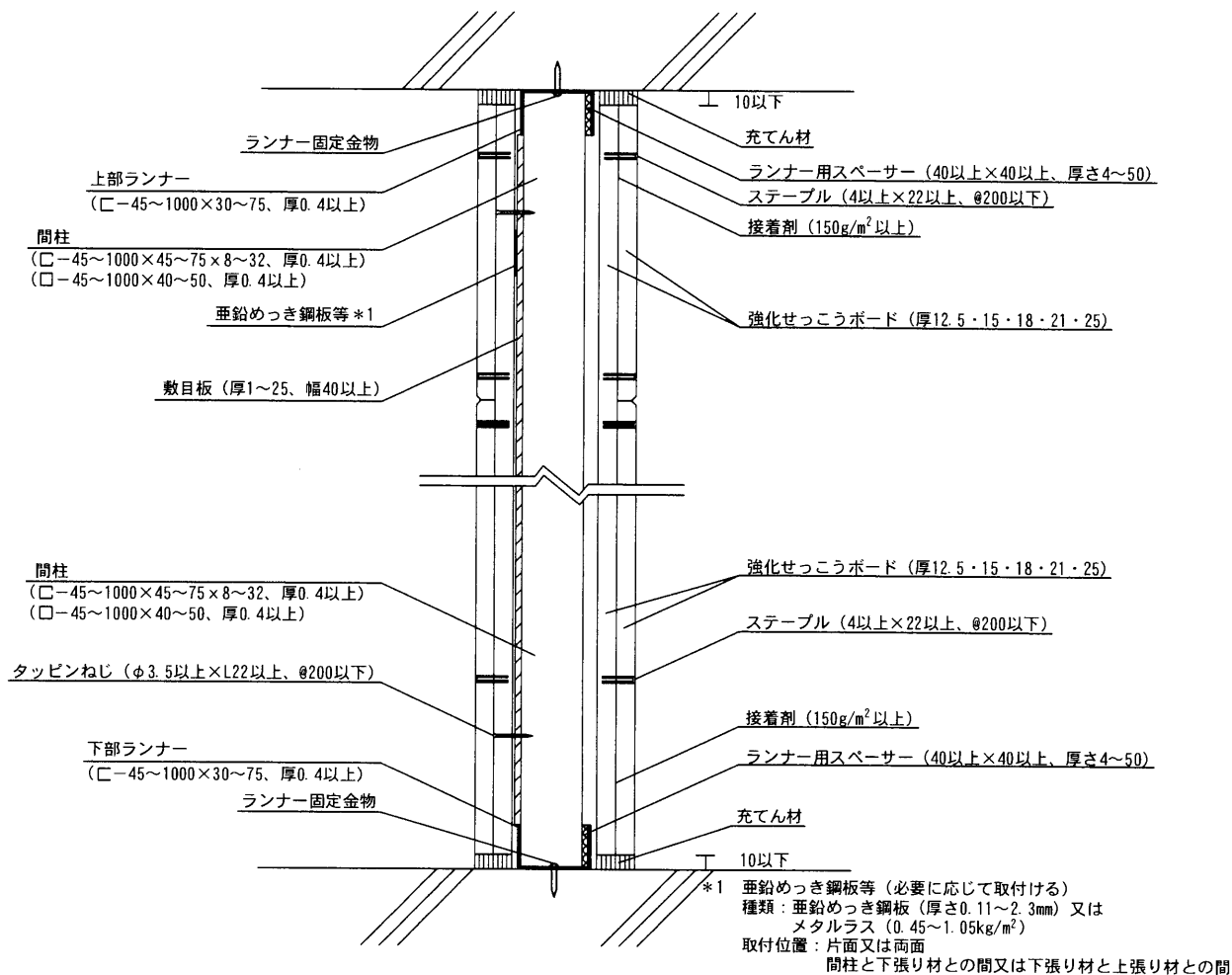
④シングルランナー千鳥間柱構造（スペーサー仕様）

（単位：mm）



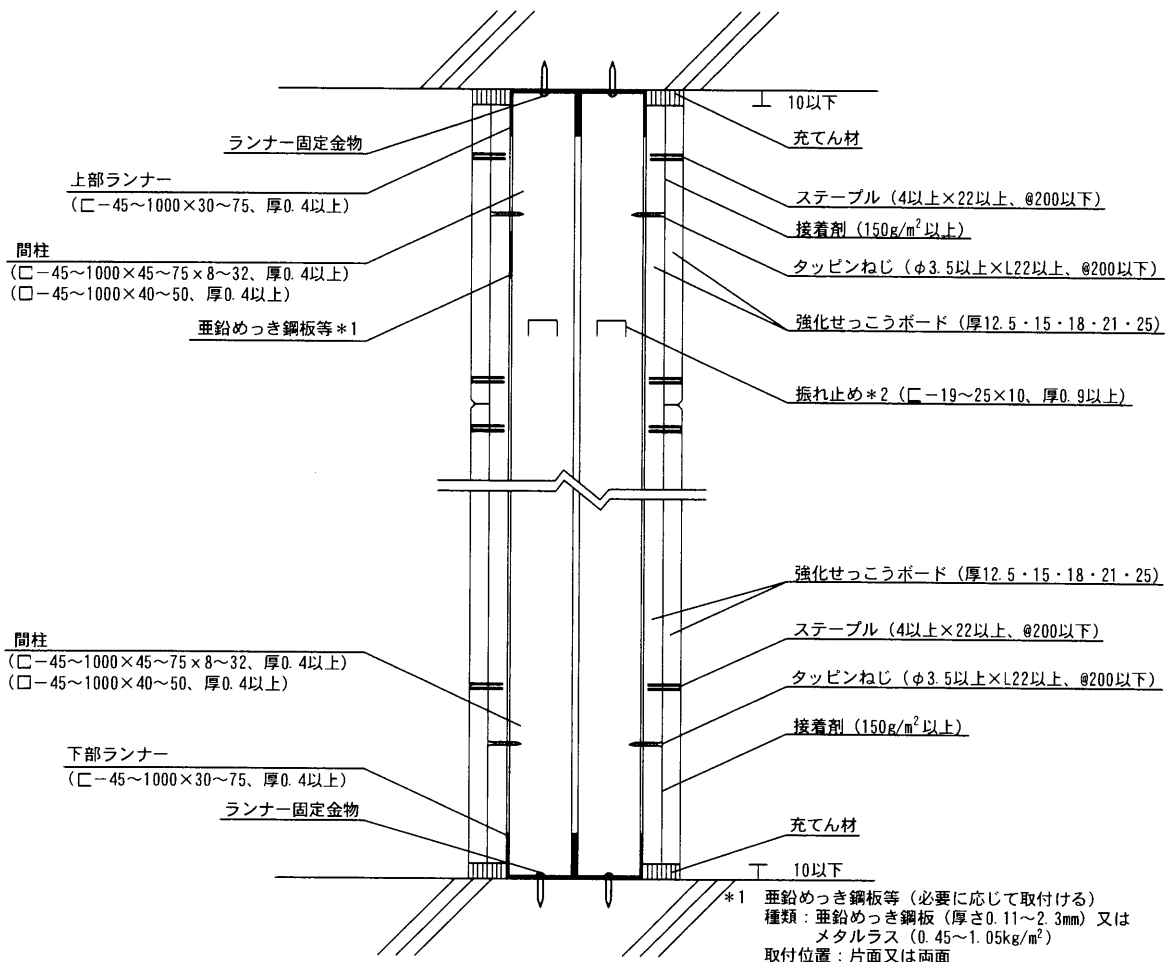
⑤シングルランナー千鳥間柱構造（敷目板仕様及びスペーサー仕様）

（単位：mm）



⑥ダブルランナー並列間柱構造

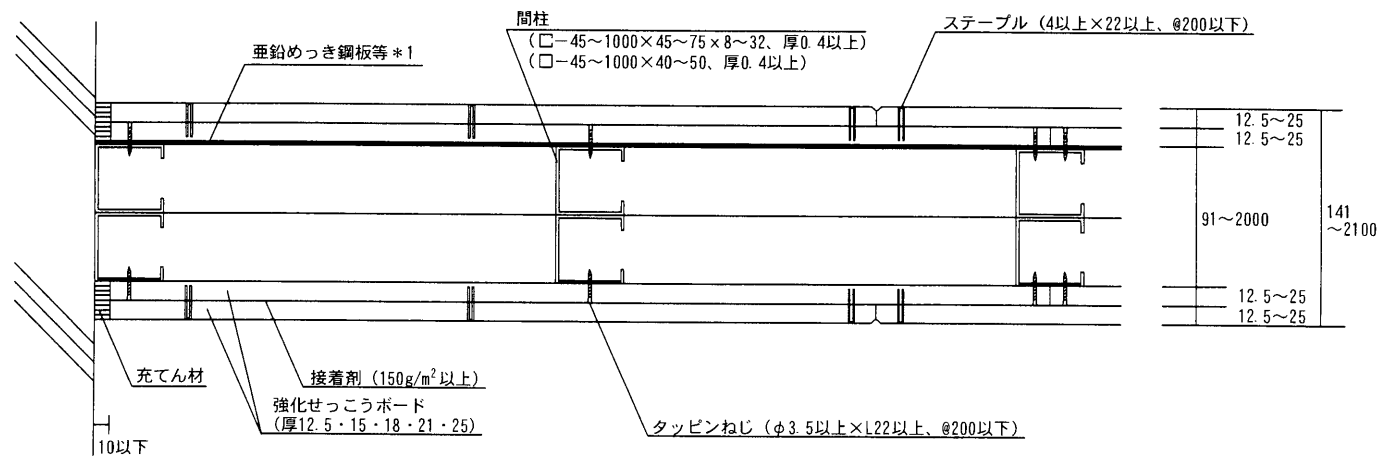
(単位: mm)



*1 垂鉛めっき鋼板等 (必要に応じて取付ける)
種類: 垂鉛めっき鋼板 (厚さ0.11~2.3mm) 又は
メタルラス (0.45~1.05kg/m²)
取付位置: 片面又は両面
間柱と下張り材との間又は下張り材と上張り材との間

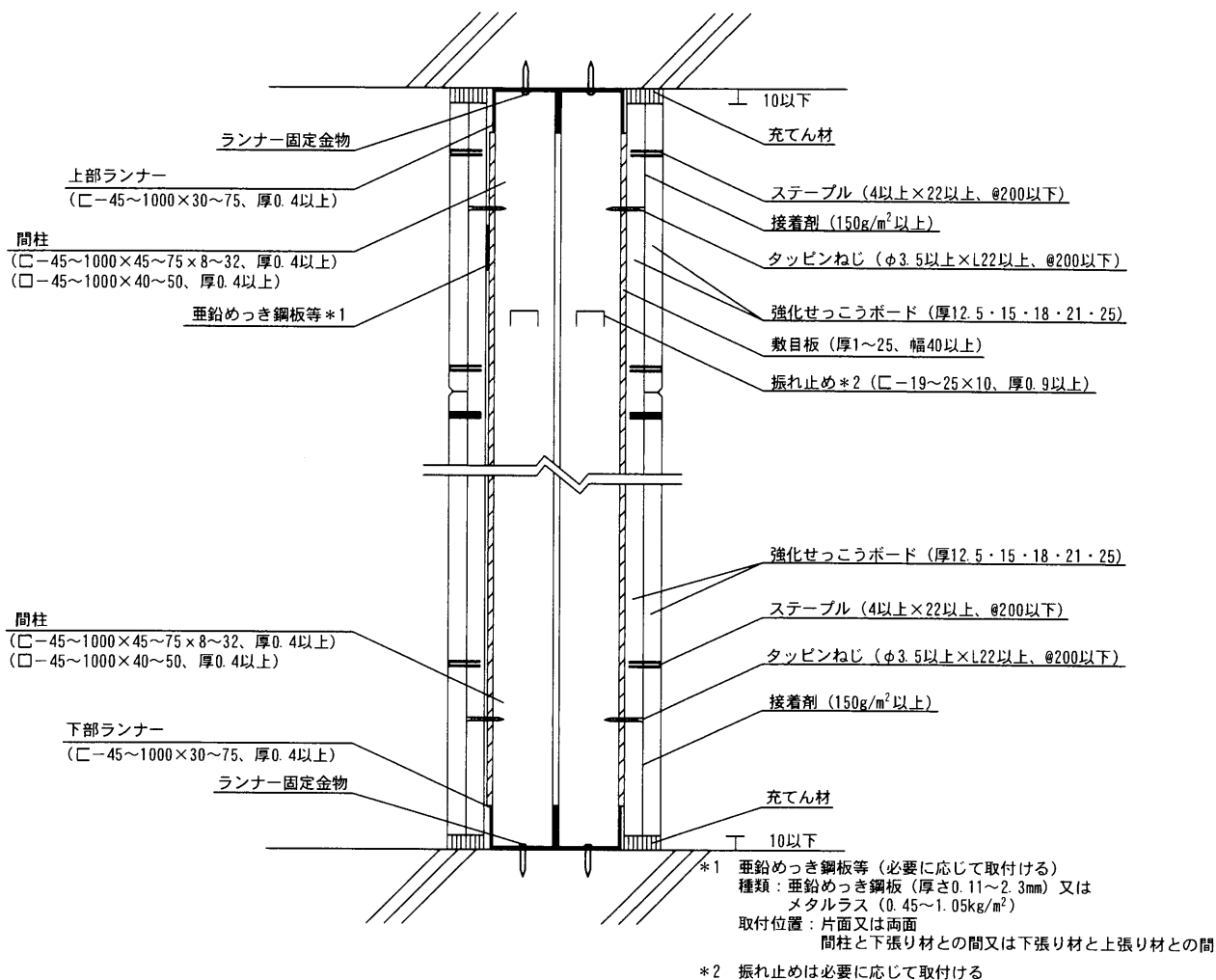
*2 振れ止めは必要に応じて取付ける

606以下

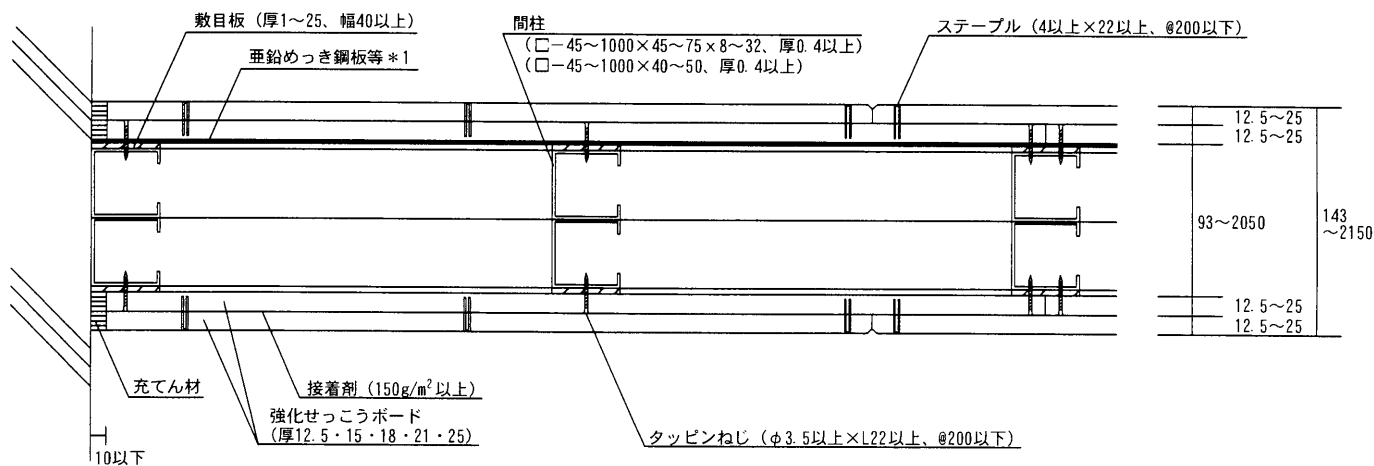


⑦ダブルランナー並列間柱構造（敷目板仕様）

（単位：mm）



606以下



5. 施工方法

(1) 上部及び下部ランナーの取付け

上部及び下部ランナー(以下、上下ランナーという)を取付ける位置に墨出しを行う。上下ランナーを取付ける躯体がコンクリートの場合は、ランナー固定金物等にて、鋼製の場合は、ランナー受けピース等を介してタッピンねじ、溶接等にて、それぞれ900mm以下の間隔で上下ランナーを躯体に取付ける。

(2) 間柱(スタッド)の取付け

間柱(スタッド)を予め現場の寸法に合わせて切断する。シングルランナー共通間柱構造及びダブルランナー並列間柱構造の場合は、間柱(スタッド)を606mm以下の間隔で、シングルランナー千鳥間柱構造の場合には、間柱(スタッド)を303mm以下の間隔で上下ランナーに差し込んで固定する。

□形タイプの間柱(スタッド)を使用する場合は、そのフランジ相互に、間柱(スタッド)用スペーサーを600mm以下の間隔(高さ方向)で挿入する。

シングルランナー千鳥間柱構造の間柱(スタッド)は、必要に応じて、ランナー用スペーサーを上下ランナーと間柱(スタッド)との間の中空部に挿入して、上下ランナーに固定する。

(3) 振れ止めの取付け

必要に応じて、振れ止めを取付ける場合は、予め現場の寸法に合わせて切断した振れ止めを間柱(スタッド)の側面の切欠き部に差し込んで固定する。

(4) 敷目板の取付け

必要に応じて、敷目板をタッピンねじ等で間柱(スタッド)に仮留めする。

(5) 垂鉛めっき鋼板又はメタルラスの取付け(間柱(スタッド)と下張り材との間に取付ける場合)

必要に応じて、垂鉛めっき鋼板又はメタルラス(以下、垂鉛めっき鋼板等という)を間柱(スタッド)と下張り材との間に使用する場合は、予め現場の寸法に合わせて切断した垂鉛めっき鋼板等を間柱(スタッド)の片面又は両面に $\phi 2.8\text{mm}$ 以上 $\times L10\text{mm}$ 以上のタッピンねじ等(必要に応じて下穴を開ける)で仮留めする。

(6) 下張り強化せっこうボードの取付け

下張り強化せっこうボードを、予め現場の寸法に合わせて切断し、 $\phi 3.5\text{mm}$ 以上 $\times L22\text{mm}$ 以上のタッピンねじで200mm以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。

(7) 垂鉛めっき鋼板等の取付け(下張り材と上張り材との間に取付ける場合)

必要に応じて、垂鉛めっき鋼板等を下張り材と上張り材との間に使用する場合は、予め現場の寸法に合わせて切断した垂鉛めっき鋼板等を下張り材の片面又は両面に配置し、 $\phi 2.8\text{mm}$ 以上 $\times L22\text{mm}$ 以上のタッピンねじ等(必要に応じて下穴を開ける)で間柱(スタッド)に仮留めする。

(8) 上張り強化せっこうボードの取付け

上張り強化せっこうボードは、予め現場の寸法に合わせて切断し、その目地が下張り強化せっこうボードの目地と重ならないように配置し、接着剤(150g/m²以上)を併用して、幅4mm以上、長さ22mm以上のステープルで200mm以下の間隔で下張り強化せっこうボードに留め付ける。必要に応じて、 $\phi 3.5\text{mm}$ 以上 $\times L32\text{mm}$ 以上のタッピンねじで900mm以下の間隔で間柱(スタッド)に留め付ける。

(9) 壁端部の処理

下張り又は上張り強化せっこうボードのどちらか一方に、あるいはこの両者に目透かしを設ける場合は、目透かし幅を10mm以下とし、それぞれの目透かし部に充てん材を隙間なく充てんする。